

科目名 Course Name	介護の基本IV Fundamentals of care IV			ナンバリング No.	J3-001		
年次	2年	期別	前期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	藤田 智						
連絡方法	C-Learning に対応。						
必修/選択	選択(介護福祉士養成課程必修)						
関連 DP	DP1,DP3,DP5						
授業の概要と到達目標	<p>講義では以下の(1)～(4)のことを中心に学習する。</p> <p>(1)リハビリテーションの定義と理念に関する基本。</p> <p>(2)リハビリテーションの各分野と実施体制。</p> <p>(3)リハビリテーションの具体的実施方法(脳血管障害、フレイル、心臓呼吸疾患、認知症等について)。</p> <p>(4)障害者の自立と社会環境整備の関係。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>(1)リハビリテーションの定義と理念について、正しい基本原則を説明できるようにする。</p> <p>(2)各疾患の発症当初から、どのようなリハビリテーション経過をたどるのか基本を説明できるようにする。</p> <p>(3)各疾患から生じる具体的障害が社会生活にどのように影響するのかを知り、自立を支援するための基本を説明できるようにする。</p> <p>(4)介護福祉士としての技術を臨床場面や社会の中で実践できるようにする。</p>						
授業の方法	板書や PowerPoint を使用した講義形式を基本として行う。コミュニケーションの取り方、実際の接し方など臨床に則った内容で具体的にリハビリテーションを理解できるようにする。内容によって実技形式、グループディスカッション形式を取り入れる。						
学習成果	L01	リハビリテーションにおける理念・定義・基本的な考え方を身につけることができる。					
	L02	リハビリテーションにおける介護福祉士の役割を念頭に置きながら、介護福祉士として関わることができる。					
	L03	リハビリテーションに関わる職種と円滑な連携を取ることができ、障害者や高齢者の自立に貢献することができる。					
	L04						
課題に対するフィードバック	小テストを定期的実施。試験結果は、次講義時にフィードバックする。						
教科書/参考図書	学びやすいリハビリテーション論(硯川真旬 編、金芳堂)						
履修上の留意点やルール等	無断退室は禁ずる。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 180 分とする。						
担当教員の実務経験	佐野厚生総合病院・伊澤外科整形外科での理学療法士経験 18 年 佐野日本大学短期大学での非常勤講師経験 6 年						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	介護福祉士は、身体介護、生活援助、相談・助言を行う職業であり、社会性が大きく問われる。授業を聞く姿勢や質疑応答での対応、社会性を重視する。積極的姿勢を評価する。	10	10	10	
レポート/作品	満点の条件は、「資料・講義の要点を A4 1 枚で十分にまとめ、期間内に提出できる。」である。	5			
発表					
小テスト	計 3 回小テスト。知識の有無を確認。8 割程度の理解で S 評価とする。	10	10	10	

試験	小テストの内容を含め、計 15 回の内容から構成されるテスト。8 割程度の理解で S 評価とする。	15	10	10	
その他					
<b>合計</b>		40	30	30	

回数		授業計画
1	授業内容	イントロダクション、リハビリテーションとは。
	事前・事後学習	リハビリテーションについての知識の確認をする。
2	授業内容	リハビリテーションの理念。
	事前・事後学習	リハビリテーションの理念についての知識を参考文献の資料を中心に再確認する。
3	授業内容	リハビリテーションの目的
	事前・事後学習	リハビリテーションの目的についての知識を参考文献の資料を中心に再確認する。
4	授業内容	リハビリテーションの範囲・対象
	事前・事後学習	リハビリテーションの範囲・対象についての知識を参考文献の資料を中心に再確認する。
5	授業内容	障害の概念、1-5の小テスト
	事前・事後学習	障害の概念について要点をまとめる。
6	授業内容	小テストのフィードバック、リハビリテーション医療の流れ
	事前・事後学習	リハビリテーション医療の流れを参考文献の資料を中心に再確認する。
7	授業内容	リハビリテーション医療の組織
	事前・事後学習	医療・介護のチームの一員として介護福祉士の役割を確認する。
8	授業内容	ADL(日常生活活動)とQOL(生命の質)、6-8回の小テスト
	事前・事後学習	ADLとQOLについて参考文献の資料を中心に再確認する。
9	授業内容	小テストのフィードバック、症候別に考えるリハビリテーションⅠ(脳血管障害)
	事前・事後学習	脳血管障害をもつ人への介護福祉士としての基本的な関わり方を再確認する。
10	授業内容	症候別に考えるリハビリテーションⅡ(精神障害・認知症)
	事前・事後学習	精神障害・認知症をもつ人への介護福祉士としての基本的な関わり方を再確認する。
11	授業内容	症候別に考えるリハビリテーションⅢ(虚弱高齢者・フレイル)
	事前・事後学習	フレイルの方への介護福祉士としての基本的な関わり方を再確認する。
12	授業内容	症候別に考えるリハビリテーションⅣ(循環器疾患・呼吸器疾患)
	事前・事後学習	各種疾患をもつ人への介護福祉士としての基本的な関わり方を再確認する。
13	授業内容	施設・地域におけるリハビリテーション、9-12回の小テスト
	事前・事後学習	施設・地域でのリハビリテーションについて資料を中心に再確認する。
14	授業内容	福祉用具と補助具、リハビリテーションにおける今後の展望
	事前・事後学習	資料などを中心に再確認する。
15	授業内容	1-14のまとめ、リハビリテーションに係る実技体験
	事前・事後学習	実技の再確認。16回目でのテストへの準備。